

平成30年(2018年)9月21日(金曜日)

政策転換は解除条件該当

三島市議会 市、再開発協定で答弁

三島市は20日、三島駅南口東街区再開発の事業協定に関し、政策方針の転換や関連予算案の不成立は契約を解除する条件に該当するとの考えを明らかにした。三枝邦昭計画まちづくり部長が市議会9月定例会の一般質問で村田耕一氏(公明)に答えた。

三枝部長は協定が解除される場合の条件について「社会経済情勢の変化や天災地変、その他やむを得ない事情などがある」と説明。その上で、行政や議会の意思表示である(三島支局・河村英之)

再開発計画は8月末、市と地権者団体、それにミサワホームを代表とする共同企業体(JV)の3者が事業協定を締結し、推進に向けて具体的に動きだした。

三島市議会9月定例会は20日の一般質問で、三島駅前再開発を巡り波紋を広げた豊岡武士市長の言動を議員2氏が相次いで取り上げた。市長が答弁で謝罪したのを受け、市長体との懇談で「中止を

と言うなら私を殺してからにしてください」と発言。その場に座り込む様子などが全国的に報道され、市に抗議が多数寄せられる事態になった。

市長は答弁で「不快な思いをされた方には

おわびしたい」と陳謝。質問者の佐野淳祥氏(改革みしま)は「これでこの件は済むのでは」と収拾を図った。

一方、その後質問に立った服部正平氏(共産)は「発言は市民の意見を封殺するごう喝

であり、民主主義の否定だ」と非難。謝罪も形式的だとして改めて市長に考えをただしたところ、市長は佐野氏への答弁を繰り返し読み上げたため、「誠意ある態度と言えるのか」と問い掛けた。

「殺してから」発言に質問

事態収拾や反論

派が事態を収めようとしたり、別の市議は「トップの言動と巡り波紋を広げた豊岡武士市長の言動を議員2氏が相次いで取り上げた。市長が答弁で謝罪したのを受け、市長体との懇談で「中止を